

使徒信条

わたしは、天地の造り主、全能の父なる神を信じます。

わたしは、そのひとり子、わたしたちの主、イエス・キリストを信じます。主は聖霊によってやどり、処女マリアから生まれ、ポンティオ・ピラトのもとで苦しみを受け、十字架につけられ、死んで葬られ、陰府にくだり、三日目に死者のうちから復活し、天に昇って、全能の父なる神の右に座しておられます。そこから来て、生きている者と死んでいる者とを審かれます。

わたしは、聖霊を信じます。聖なる公同教会、聖徒の交わり、罪の赦し、からだの復活、永遠のいのちを信じます。アーメン

主の祈り

天にまします我らの父よ、

願わくは御名をあがめさせたまえ。

御国をきたらせたまえ。

御心の天になるごとく、地にもなさせたまえ。

我らの日用の糧をきょうも与えたまえ。

我らに罪を犯す者を、我らが赦すごとく、

我らの罪をも赦したまえ。

我らを試みにあわせず、悪より救い出したまえ。

国とちからと栄とは、

限りなく汝のものなればなり。アーメン

初めて礼拝に参加なさる方への御案内

- ・教会の礼拝は、信者だけのものではありません。どなたでも、いつでも参加できます。
- ・礼拝は、「見えない神と対面するとき」です。砕かれた自分を携えて礼拝に臨みましょう。
- ・礼拝では、イエス・キリストを証言する聖書を読み、その聖書を説き明かす説教が行なわれます。イエス・キリストの御言葉と生きる姿を通して、私たち自身の生きる道を尋ねましょう。
- ・礼拝では、讃美歌を歌い、祈ります。これらは神への信頼を表し、また神の恵みに応えて感謝を捧げるものです。
- ・通常の礼拝では、自分自身をささげて神に従う献身のしるしとして、献金を捧げます。今は、「献身」のしるしとして捧げる事は難しいと感じる方が、神への「感謝」のしるしとして捧げることもまた礼拝に相応しいことです。人の目や金額の大小を思わず、心のままにお捧げ下さることは、神と人にとり仕えて生きる新しい歩みの第一歩となるはずです。

現在、礼拝・諸集会は休止しております

- ・礼拝 日曜 午前10:10より
- ・日曜学校 毎日曜 午前 9:30より
- ・祈り会 毎水曜 午前10:30より
午後 6:30より

*「キリスト教信仰Q&A」・「聖書を読み信仰を語る会」・「キリスト教会の歴史」、御希望により随時開始します。*高校生以上の集い・サマリヤ会・女性会、どなたでも御参加いただけます。
*牧師との個人面談をご希望の方もご連絡下さい。



週報

2020. 4. 26

2020. 5. 3

「あなたがたが、この山（古くから聖所のあったゲリジム山）でもエルサレム（中央聖所）でもないところで、父を礼拝する時が来る。……まことの礼拝をする者たちが、霊と真理をもって父を礼拝する時が来る。今がその時である。……神は霊である。礼拝する者は、霊と真理をもって礼拝しなければならない。」

(ヨハネ4:21~24)

日本キリスト教会

札幌豊平教会

〒062-0906 札幌市豊平区豊平6条3丁目5-15

電話 (011) 811-6838

FAX (011) 811-6847

Eメール toyohirachurch@jcom.home.ne.jp

HP <https://www.ccjtoyohira.com/>

北海道中会ホームページ <http://nikki-hokkaido.net/>

聖書 使徒言行録2：25～28②
(新約聖書 p216)
説教 「命に至る道」 牧師 稲生義裕
祈り

初めての礼拝休止に寄せて

4月26日の主日礼拝休止は、豊平教会の歴史の上でも初めての事です。主日礼拝は、教会共同体と信仰者の生活の要のところにあり極めて大切な集い(礼典)です。しかし私どもはこのたび、主日礼拝休止の判断をいたしました。

為政者による迫害の中でも、人々からの排斥の中でも、砲弾が飛び交う中でも、廃墟の中でも神を見上げて礼拝をささげてきたキリスト教会の歴史の流れの中に、私どももあります。この先人の歩みに私どもは、敬意を覚えます。

しかしまた日本が今、国家主義への傾きを増していることを知っています。表現の自由・報道の自由が脅かされている憂うべき現実の中にあり、これが更に進み、かつてのように信教の自由が侵されることにならないかと危惧いたします。

歴史は、地上的権威である為政者の「宗教または信仰」に対する態度を物語っています。端的に言えば、弾圧か利用かです。大政奉還以来、為政者は国家神道(天皇崇拜)を創設して、この政治的宗教を利用し、個人の宗教(仏教やキリスト教等々)を弾圧、もしくは国家主義への迎合圧力をもって信仰の変容を迫ってきたのです。思想教育(教育勅語・皇民化教育)と警察

力を動員して行われた礼拝への干渉(宮城遥拝・礼拝中止・説教者の逮捕)に屈し、大政翼賛戦争賛美体制に組み入れられ、戦争抑止の力とならず未曾有の殺戮に加担してきました。

こうした歴史の反省を踏まえつつも、このたびは違います。見えない未知のウイルスの砲火を浴びています。砲弾は、自国の為政者からでも敵国機からでもなく、電車やバスの同乗者から、隣席の礼拝者から互いに放ち放たれるものです。その点で礼拝の休止は苦渋の決断であっても、一堂に集うことは断念せざるを得ないのですが、むしろ私どもは地球市民として、共同社会に責任を負う者らとして、礼拝休止を積極的に決めました。

もちろん専門家の意見に真摯に耳を傾け、政府の方針を尊重する。それでもなお、この判断は私どもの「信仰的・主体的判断」であることを心に銘記しておきたいのです。

私どもが日常行う判断は、日々限りなくあるのですが、ことに主より託されたこの地上で大切な判断を求められることがあります。その時私どもは、こう考えるのではないのでしょうか。

その1は、この判断が神の御心であるか、すなわち神より託された共同社会に生きる一人として「他者の隣人となっているか」(ルカ10:36)。

その2は、義なる神の権威に服しているか(マタイ6:33)。すなわち地上の権威の前に、信仰者としての主体性を放棄していないか、と。

報告

- ・19日の主日礼拝 出席10名、子0
- ・24(金)とよひら食堂：45名(玄関先で弁当配布38食ボラ7名)テレビ塔下弁当配布16食

招きの詞 創世記1：1，3
讃美歌 I-545
聖書 使徒言行録2：29～36
(新約聖書 p216)

祈り
説教 「神は歴史の中に語りかける」
牧師 稲生義裕

讃美歌 I-164 (オルガン演奏)
主の祈り
頌栄 I-539 (オルガン演奏)
祝祷
後奏 アーメン三唱(奏楽)

今週の集会

- ・7日(木) とよひら食堂、弁当主菜調理
- ・8日(金) 12:30 とよひら食堂:弁当玄関先配布

次主日の予告(2020年5月10日)

礼拝 復活後第4主日
聖書 使徒言行録2：37～42①(新p217)
説教 「招きは神によって」 牧師 稲生義裕
讃美歌 I-545, 240, 540

*10時10分よりフェイスブックにてライブ配信報告

- ・26日(日) 主日礼拝休止(説教のみ配信)
その他の諸集会も休止
- ・27日(月) 朝ごはん、初めての休止(ボラの感染防護)
- ・1日(金) とよひら食堂:45名(玄関先で弁当配布35食、ボラ3名)テレビ塔下弁当配布休止(ボラの感染防護)

《2020年度主題》

『他者と共に、他者のために～食でつながる心と命～』
聖書 使徒言行録2：43～47